

## 【台詞集：キャスター】

### ■ [音声有り](#)

- [選択](#)
- [登場](#)
- [勝利](#)
- [攻撃](#)
  - [通常攻撃](#)
  - [必殺技](#)
  - [超必殺技](#)
  - [聖杯必殺技](#)
- [魔力開放](#)
- [受け身](#)
- [ダメージ](#)
- [K.O.](#)
- [勝利台詞](#)
- [ストーリー](#)

## 音声有り

---

### 選択

- 魔女の指先、とくと味わってもらおうかしら。
- 思い知らせてあげましょう。

### 登場

- 全てはあの人のため……（汎用）
- ここで消えてしまいなさい（汎用）
- 精一杯足掻きなさい(汎用)
- いらっしゃい…（汎用）
- うるさい坊やね…（VS士郎）
- ふふ、いいじゃないセイバー？（VSセイバー）
- 主人に忠誠を誓えないの？（VSアサシン）

### 勝利

- 逃げる算段は立ったかしら？（1本目）
- あらあら、頑丈ね(1本目)
- まだ楽しませてくださるの？(1本目)
- さあ、人形にしてあげる（決着時）
- 戦士なんてこんなものね…（決着時）
- 敗者らしく、逃げるように立ち去るのね（決着時）
- 主もろとも消え去りなさい！（VSセイバー）
- これに懲りたら、大人しく従いなさい？（VSアサシン）

### 攻撃

#### 通常攻撃

- 終わりよ！（強攻撃）
- 如何？
- 野蛮ね…

#### 必殺技

- 紫光弾(ユピテル・ロッド)：これはどう？
- 列閃(エレ・ヘカテ)：これはどう？
- 龍牙(コルクス)：竜の骸よ！/役立たずが…！（破壊時）
- 電蔵(ネレイデス)：絶望なさい！

冥火（エトナ）：逃げられて？

- 
- 轟雷（ユピテル・ロック）：天の怒りよ！
- 怪鎖（アラクネ）：これはどう？
- 圧迫（アトラス）：フフフ...
- 瞬来（オキュペター）：ここまで来られて？
- 病風（アエロー）：アエロー！
- :

## 超必殺技

- 破戒すべき全ての符（ルールブレイカー）：この世の万象、その全てを原初に還さん.../あらあら残念...ルールブレイカー！
- コリュキオン：コリュキオン！
- ヘカティック・グライアー：死になさい！/マキア...ヘカティック・グライアー！
- :

## 聖杯必殺技

- マキア・ヘカティック・グライアー：死になさい！/マキア...ヘカティックグライアー！/灰すらも、残さない.....

## 魔力開放

- ついてこれるかしら！？

## 受け身

- 許さなくてよ！

## ダメージ

- もう、嫌.....
- これだから...

## K.O.

- 私の、邪魔を...！（1本目）
- こんなことで.....（決着時）

## 勝利台詞

- 私の高速神言は剣士の刃にさえ先んじる。そんなナマクラで挑もうと思ったのが間違いよ（汎用）
- 貴方の戦い方は優雅さに欠けるわ。さっさと終わりにさせてもらうわね。（汎用）
- 貴方も聞いた事があるのではなくて？その昔、数々の国を死に至らしめた魔女の名を（汎用）
- 侮ったようね。貴方の時代の魔術師がどれほどだったのかは知らないけど、この指は神代に生きたもの（汎用）
- あら、思いのほか面白い能力を持っているのね坊や。いいわ、その体だけは有効に使ってあげる（VS士郎）
- ふふ、貴方も運がないわね。もう少し無能だったなら、教え子にしてあげてもよかったのだけれど（VS凜）
- フン、飼犬風情が主の手を噛もうというのなら、相応の罰が必要ねえ（VSアサシン）
- そんな幼稚な魔術で私を騙ろうだなんて、無謀なのか馬鹿なのか...何にせよ、腹立たしいわ（VSキャスター）
- フフフ、これで貴方は私のモノね。さあ立ちなさいセイバー。たとえ神が罰しようと、私は貴方を許してあげる（VSセイバー）
- これだから顔がいい男は！油断！ならないのよ！（VSゼロ・ランサー）
- 宗一郎様、私は必ず聖杯を手に入れます。万能の願望機であるならば、貴方を死から蘇らせることも叶うはず（VSギルガメッシュ/ストーリー）
- はぁ、はぁ.....やった、わ.....これで、後は聖杯さえ起動すれば.....（VSバーサーカー/PS2ストーリー）

## ストーリー

- オープニング

キャスター「う.....く.....  
...ここは.....？」

葛木「起きたか。事情は話せるか」

キ「……助けてくれたのですか……？  
貴方が？」

葛「その血は、どうやら返り血のようだが」

キ「……。」

葛「迷惑だったのなら帰るがいい。  
忘れるというなら忘れよう」

キ「いいえ、待って！……どうか、私を哀れと思うなら、契約を  
貴方の魂を糧とする代わりに、私はあらゆる望みを叶える聖杯を貴方に捧げます  
私は聖杯を争奪する戦いのため、この世界に招かれたサーヴァント  
名も知らぬ御方よ、どうか私のマスターとなって、  
共にこの聖杯戦争に参加してくださいませ」

葛「……対価はいらん、だが、助力を必要とされるのであれば応じよう。  
私の名前は葛木宗一郎だ」

キ「私は……  
ひとまず、キャスターとお呼びください」

#### ■ 4 戦目 / ギルガメッシュ

葛「く……がはっ！」

キ「マスター、マスター！！」

葛「ここから離れるキャスター。  
お前の気配を察すれば、今のサーヴァントが戻ってくる」

キ「何を言うのです……！気を確かに、必ず治します  
貴方を死なせはしませんマスター…！」

葛「キャスター……。  
いいから、もう行きなさい。  
始めから……ここは、君の居場所ではなかったのだ」

キ「ああ、あああああ…！死なないで、  
死なないで、死なないで宗一郎……！！」

ギルガメッシュ「何事だ、騒がしい、……んん？  
ほう、まだ刈り残した雑種が隠れ潜んでいたか」

キ「よくも……私のマスターを……ッ」

ギ「ふん、よもや我に挑みかかる気になろうとは、  
キャスター風情が思い上がったものだ」

#### 8 戦目 / バーサーカー

イリヤ「ようこそキャスター。  
マスター不在のまま、よくここまで辿り着いたものね」

キ「……確かに、私に残された魔力は少ないわ。  
けれど私の他に残ったサーヴァントはバーサーカーだけ  
この身が消え去る前に決着をつけ、  
聖杯の器である貴女を確保すれば、  
それで聖杯は私の手に…ッ！」

イ「だからって、正気？  
あなたにとって天敵のバーサーカーに正面から挑みかかるなんて…

キ「私には、どうあっても聖杯が必要なのよ！  
ここまできて、諦めてたまるものですか！」

イ「そう……あとでがっかりさせるのもかわいそうだから教えてあげる。  
私は聖杯として完成するには程遠い状態よ。だって中身は半分も満たされていないもの」

キ「な 何ですって？」

イ「あなたは知らなかったようね、

今回の聖杯戦争には、私の他にもう一人、器になった女がいるの。  
今まで倒れてきたサーヴァントの魂は、大半がそっちにもっていかれたわ」

キ「くっ……ええ、それでも構わない、  
大聖杯にまで至らなくても、せめてサーヴァント4人分の魂があれば、  
小聖杯としては機能するはずよ  
ただ願望器として使うだけなら、それだけで十分よ！」

イ「どうかしら。仮にバーサーカーを倒せたとしても、  
それで小聖杯に届くかどうか判らないわ、  
とても分の悪い賭けだと思うけど？」

キ「構わないわ。この願いを遂げる為ならば、  
私はどんな条理であろうと、  
捻じ曲げてみせる！」

## ■ エンディング

キ「そんな……ウソ！？何故？  
聖杯は！？私の聖杯は！？」

イ「残念ね、キャスター。  
バーサーカーの魂も、ぎりぎりで器を満たすには至らなかった。  
惜しいところだったわ」

キ「何故……何故なの？  
何のためにここまで戦ってきたの？  
どうして本当に大切なものばかり……  
私の手から逃げていくのよ！？」

イ「警告はしたはずよ、  
無駄な戦いになるって、  
それでもあなたは挑みかかった。後悔してるの？」

キ「いいえ、無駄になんかさせない、  
完成まであと一歩だったというのなら……  
もう一人、サーヴァントの魂を捧げれば、  
それで小聖杯は現れるわね？」

イ「ええ、ただの願望器でいいのなら、それで十分。  
……でもキャスター、まさか、あなたは」

キ「ええ、構わない、叶えたい願いは一つだけ  
そのための対価なら、どんなものでも差し出します」

葛「……ここは……何？  
まさか……生きて…いる、のか？私は  
キャスター、何処にいる、  
何があったのか説明しろ、  
……キャスター？」